

知識基盤社会・超少子高齢化社会における論語の学び方

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：論語とは何ですか。

A：約 2500 年くらい前に中国で活躍した「孔子」の教えを、弟子たちが 499 章にまとめたもので、古典中の古典といわれる本です。

Q：好きな章を紹介してください。

A：＜為政第二、四・二十＞です。

.....

子曰く、吾十有五にして、学に志す。

三十にして立つ。

四十にして惑わず。

五十にして天命を知る。

六十にして耳従う。

七十にして心の欲する所に従えども、矩
(のり)をこえず。

.....



今日の論語

Q：どのような意味ですか。

A：足利高校在学中に 3 年間漢文を教えていただいた、故須永美知夫先生著「論語抄」足利学校刊の「通
釈」では次のようになっています。名訳です。

.....

孔子が言った。私は十五歳で学問に志し、三十歳で、思想も、見識も確立した。四十歳で心の惑いもなくなり、五十歳で、天から与えられた使命を自覚した。六十歳で、何を聞いても耳にさからうことがなくなり、七十歳になると、自分の欲望のままに振舞っても、その行動が道徳から外れることはなかった。

.....

Q：論語のこの文章を、知識基盤社会、超高齢化社会ではどのように読んだらよいとお考えですか。

A：孔子が逝去なさったのは 73 ですが、当時としては 70 歳を超えると長寿でした。また、現在の日本では長寿といえるのは百歳ですから、孔子の教えにプラス 30 歳を加えること私は提言いたします。現代は、超少子高齢化に加え、知識基盤社会・高度情報化・デジタル化社会ですので、学ばなければならないことは、文字通り山ほどあります。ですから、

- ①「学に志す」べきは、十五歳に三十歳を加えた、四十五歳とし、「四十五歳にして学に志す」を目標とすべきと考えます。
- ②「三十にして立つ」も、三十歳を加えて、六十歳とし、「六十歳にして立つ」に。
- ③「四十にして惑わず」は、三十歳を加えて、七十歳とし「七十歳にして惑わず」に。
- ④「五十にして天命を知る」は、三十をえて、八十歳とし、「八十歳にして天命を知る」に。
- ⑤「六十にして耳従う」は、三十歳を加えて、九十歳とし、「九十歳にして耳従
- ⑥「七十にして心の欲する所に従えども、矩をこえず」は、三十歳を加え、百歳とし、「百歳にして、心の欲する所に従えども、矩をこえず」に。このように考えます。

Q：全項目、プラス三十歳ですか。

A：その通りです。

- (1)①現代は、知識基盤社会ですので、学ぶべき基本的なことが、文字通り山ほどありますので、45歳までにありとあらゆる経験を積み、45歳から本格的な勉強をスタートすることが求められます。
- ②もち論基礎基本は、15歳から学ぶことが必要ですが、45歳までの30年間かけても知識基盤社会における基礎基本は学び終えることはできません。
- ③やはり、様々な経験と、基礎基本に基づく本格的な勉強に志すべきは、45歳からといえます。
- ④現代の45歳には、15歳の体力を持つ方は、山ほどいます。現代の45歳は、15歳の体力を目指すべきです。これが、超少子高齢化社会のあるべき姿です。

(2)

.....

45歳にして、学に志す。60歳にして、立つ。70歳にして、惑わず。80歳にして、天命を知る。90歳にして、耳従う。100歳にして、心の欲する所に従えども矩をこえず。

.....

論語にプラス三十歳を加える。人生は、長い。100歳を基準に、無理のない努力目標をつくる時に、「論語プラス三十歳」を、8月1日から提唱したく思います。これなら、できるかもしれませんね。皆様は、どうお考えですか。

2020年7月28日(火)

16:00 ~ 16:15

CRT スタジオで収録

